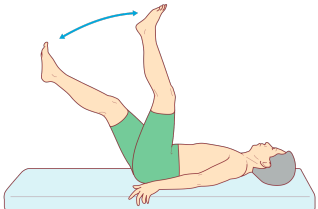
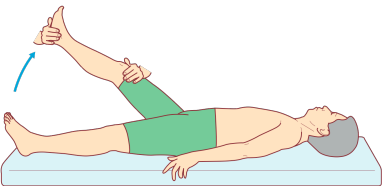


『DVD で動きがわかる モーション解剖アトラス 下肢・骨盤』
正誤表

『DVD で動きがわかる モーション解剖アトラス 下肢・骨盤』（2009 年 10 月 10 日 第 1 版第 1 刷）に誤りがありました。ここに深くお詫び申し上げ、訂正いたします。

(2011 年 2 月 8 日 メジカルビュー社編集部)

CLIP2（腰神経叢，鼠径管，大腿動脈・静脈・神経をみる）

ページ	誤	正
p.11, 12	Lasegue テスト Lasegue's test Lasegue 徴候	Lasègue テスト Lasègue's test Lasègue 徴候
p.12 図 2		

CLIP10（膝屈曲・伸展，十字靭帯をみる）

ページ	誤	正
p.59「前十字靭帯と後十字靭帯をみる 0 分 38 秒～1 分 07 秒」の 1 行目	前十字靭帯は 伸展 0° では後十字靭帯に接して蛇行しており、30° 前後に屈曲した状態で最も緊張する。	前十字靭帯は 伸展 0° で最も緊張するが、後十字靭帯は伸展 0° である程度弛む。
p.59「前十字靭帯と後十字靭帯をみる 1 分 07 秒～1 分 42 秒」の 1 行目	膝関節屈曲・伸展を観察すると、伸展位では膝関節の内外旋はほとんど起こらず、前十字靭帯も 緊張しない。	膝関節屈曲・伸展を観察すると、伸展位では膝関節の内外旋はほとんど起こらず、前十字靭帯も 緊張する。

p.63 「臨床への応用：Lachman テスト」の3行目	90° 屈曲時よりも前十字靭帯に高い張力が加わるため、前方引き出しテストより感度が高いといわれている ⁴⁾ 。	90° 屈曲で行う前方引き出しテストよりも、感度が高いといわれている ⁴⁾ 。
p.63 「臨床への応用：前十字靭帯再建」の7行目	前方引き出し、外旋+内旋の力をそれぞれの膝標本にかけたところ、	前方引き出し、外反トルク+内旋の力をそれぞれの膝標本にかけたところ、
p.63 「臨床への応用：前十字靭帯再建」の11行目	前方変位量は逆に有意に大きかったため。二重束再建の方が優れているとしている。	前方変位量は逆に有意に大きかったため、二重束再建の方が優れているとしている。